

シンポジウム

中国政治の光と影

—習近平体制の課題と展望—

2013年11月13日（水）JST東京本部別館 1Fホール

開催趣旨

中国の習近平政権の発足から1年を迎えます。この機会に中国の政治・経済・社会の動向を解析しながら、近未来の日中交流の在り方などを模索するシンポジウムを企画しました。

中国はいま、順調に続いていた経済成長の曲がり角に來ているとされており、習近平政権の基盤がまだ固まっていないことと相まってチャイナリスクという言葉が取りざたされています。

投資主導の成長の裏に見え隠れする影の銀行、反腐敗運動の狙いと効果、厳しい日中関係の打開策など大きな課題が山積する一方、李克強首相主導の経済活性化政策であるリコノミクスが打ち出され、経済構造を調整しながら緩やかな成長を目指しているようにも思われます。このような改革を進めながら、中国は引き続き成長を成し遂げていくことができるだろうか。各地でデモや集会が頻発している中国社会は、安定した秩序を保つことができるだろうか。尖閣列島問題後に、こう着状態が続いている日中の交流は、どのようにして打開して好転させることができるだろうか。

中国の専門家をお招きして習近平政権の1年を顧みながら、中国の現状と課題を分析し、今後の中国の行方と日中交流への道筋について討論してもらいます。

プログラム

14:00 - 14:05 … 開会・講師紹介

14:05 - 15:35 … 第1部 講演

坂東 賢治	毎日新聞 編集編成局次長
曲 徳林	清華大学社会科学学院 日本研究センター長
朱 炎	拓殖大学政治学部 教授
田中 修	日中産学官交流機構 特別研究員
美根 慶樹	キャノングローバル戦略研究所 研究主幹

15:35 - 15:45 … 休憩

15:45 - 16:45 … 第2部 パネルディスカッション

第1部講演者（モデレータ：坂東 賢治）

16:45 - 16:50 … 閉会

お問い合わせ … JST中国総合研究交流センター

TEL: 03-5214-7556 / E-mail: crcc@jst.go.jp

<http://www.spc.jst.go.jp/>

シンポジウム 中国政治の光と影 ―習近平体制の課題と展望―

登壇者紹介



坂東 賢治 毎日新聞 編集編成局次長

1957年5月30日 長崎県生まれ
1981年東京外国語大学中国語学科卒業後、毎日新聞社入社
政治部、香港支局長、論説委員、中国総局長、ニューヨーク支局長、北米総局長を歴任。外信部長を経て2011年4月より編集編成局次長

講演テーマ 「中国の夢」と「中国経済の昇級版」

李克強首相は今年3月の全人代後の記者会見で「中国経済の昇級（アップグレード）版を作り出す」と打ち上げた。改革開放の大枠は変えずに質や効率を高めようという意味なのだろう。上海に設置された自由貿易試験区もその手段と位置づける。習近平国家主席の提唱する「中国の夢」実現のための具体策でもある。官僚の腐敗、成長の減速、格差拡大、周辺諸国との摩擦など課題が山積みの中国。「昇級」が順調に進むかを検討する。



曲 徳林 清華大学社会科学学院 日本研究センター長

2009年、清華大学日本研究センター主任に就任、現在に至る。1967年、清華大学化学工学科を卒業。1999年から北京語言大学（BLCU）の学長、北京語言大学と清華大学の教授を兼任。過去に清華大学化学工学科副主任、同大副秘書長、同大外事弁公室主任、中国駐日本大使館教育参事官を歴任。化学プロセス分析研究、エネルギー政策研究に携わるほか、6つの国レベルのプロジェクトの責任者であった。主な担当は、化学プロセス設計・最適化研究の方法刷新。業績には、国家科学技術部科学進歩（二等賞）、中国石油化学最優秀ソフトウェア（二等賞）および国家級発明特許2件がある。

講演テーマ 習近平新体制下の中国現状と課題

1. 「中国夢」（チャイニーズドリーム）と中国の現状
2. 「リコノミクス」と中国の経済状況
3. 日中関係現状と日中民間交流



朱 炎 拓殖大学政治経済学部 教授

中国上海市生まれ、1982年に復旦大学経済学部卒、上海市人民政府財政局勤務を経て、86年に日本留学。一橋大学大学院修了後、90年に富士総合研究所、96年に富士通総研に入社、2009年に拓殖大学、現在に至る。

講演テーマ 中国経済の成長減速を克服するための新たな経済改革

中国経済は30年間の高成長を遂げたが、高成長がもたらした様々な問題は持続的成長の妨げとなって、現在の成長減速を招いた。こうした構造的問題を解決するために、中国は新たな改革を計画している。中国経済の構造的問題を検討するうえ、所得分配、独占打破、金融の自由化など、改革の内容を分析し、その効果を検討する。



田中 修 日中産学官交流機構 特別研究員

1958年東京に生まれる。1982年東京大学法学部卒業、大蔵省入省。1996年から2000年まで在中国日本国大使館経済部に1等書記官・参事官として勤務。帰国後、財務省主計局主計官、信州大学経済学部教授、内閣府参事官を歴任。2009年4月～9月東京大学客員教授。2009年10月～東京大学EMP講師。学術博士（東京大学）。著書は「2011～2015年の中国経済―第12次5ヵ年計画を読む―」（蒼蒼社）、「検証 現代中国の経済政策決定―近づく改革開放路線の臨界点―」（日本経済新聞出版社、2008年アジア・太平洋賞特別賞受賞）、「中国第10次5ヵ年計画―中国経済をどう読むか―」（蒼蒼社）、「中国は、いま」（共著、岩波新書）、「国際金融危機後の中国経済」（共著、勁草書房）、「中国経済のマクロ分析」（共著、日本経済新聞出版社）、「中国の経済構造改革」（共著、日本経済新聞出版社）など。

講演テーマ 「リコノミクス」の特徴

李克強総理の経済政策は「リコノミクス」と一般に総称されているが、その内容は大変豊富であり、4つの大きな柱で構成されている。その第1は、人を核心としたニュータイプの都市化の推進であり、第2は、政府機能の転換、第3は、合理的な区間内でのマクロ経済の安定維持、第4は、改革ポータスの国民への還元、である。しかし、それぞれの政策には困難・障害も多く、その実現には習近平総書記の強い政治的サポートが不可欠である。



美根 慶樹 キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹

学歴：姫路西高第14期生。東京大学法学部卒業。ハーバード大学にて修士号（地域研究）。職務経歴：1968年、外務省入省。72年、日中国交正常化交渉に参加。86年から在中国大使館参事官（政治部長）、94年、内閣審議官として戦後処理問題などを手掛ける。99年から2年間防衛庁で国際担当参事官、2001年、在ユーゴスラヴィア連邦共和国特命全權大使、04年、在軍縮代表部特命全權大使、07年、日中国交正常化交渉日本政府代表を命じられ、9月にウランバートルで日朝交渉。09年、外務省を退官し、キヤノングローバル戦略研究所研究主幹。

講演テーマ 革命路線か経済成長か - 習近平政権の悩み

中国では、革命か、自由化かという2つの路線対立が何回も起こったことがある。1979年以来、改革開放政策によるめざましい経済成長は中国を世界の大国へ押し上げ、中国はかつてない自信を持つに至っているが、一方で、革命路線をこれまで以上に重視しなければならないという考えが強くなっている。新政権成立以来、習近平政権はこの問題にどのように取り組んできたか。